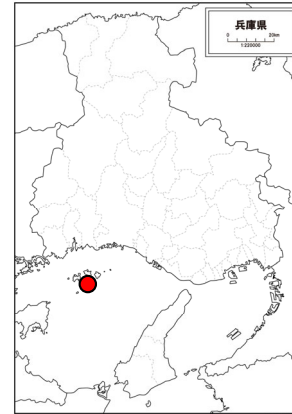


12. 【水域：増殖場、蓄養・養殖水面】 静穏域確保と水質保全による藻場回復と水面蓄養利用の促進 ：坊勢漁港（兵庫県姫路市）

概要

- 坊勢漁港では、漁港の整備に伴い消失する藻場の回復や、港内の静穏域の確保及び水質保全が課題であった。
- 藻場の回復と良好な水質の維持を図るため、藻場造成機能と海水交換機能を有する自然調和型防波堤を整備。
- 3年間で計画していた面積の藻場が回復。港内の水質も良好に維持され、港内水面の蓄養利用が促進。



背景

- ・坊勢島では、第9次漁港整備計画において比較的大規模な埋立及び防波堤の改修・整備が計画され、合計6,670m²の面積の藻場が消失することとなった。
- ・坊勢漁港内の静穏域の確保や水質の保全も急務であった。

有効活用の内容

- ・藻場の回復と良好な水質の維持を図るため、藻場造成機能（藻場の生育基盤の創出）と海水交換機能（約20m間隔に開口部を設置）を有する自然調和型防波堤を整備。
- ・漁港の整備及び修築にあたっては漁協や住民への説明会を通じて関係者において自然調和型の漁港づくりの理解を深め、工事工程などの情報共有を実施。
- ・整備後は、海水交換機能及び藻場造成機能の効果を検証するために3年間のモニタリング調査を実施。

活用した漁港施設	水域
実施時期	H13：自然調和型防波堤整備 H14～16：モニタリング調査
活用した事業	漁港修築事業（自然調和型防波堤整備） 水産基盤整備事業（自然調和型漁港づくり推進事業（モニタリング調査））
実施した手続き	財産処分（目的外使用）

坊勢漁港

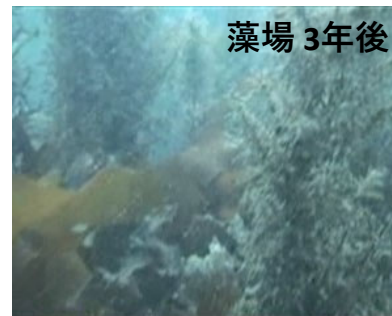


自然調和型防波堤

藻場 1年後



藻場 3年後



効果

- ・モニタリング調査の結果、大型多年草のカジメが増え、復元面積は消失した藻場面積の9割強となり、3年間で計画していた藻場がほぼ復元されたことが確認された。
- ・港内の水質は港外と同程度となっており、良好な水質が維持されていた。港内には蓄養筏が増えており、蓄養を行う水域として水質が良好な状態であることがうかがえる。
- ・魚礁効果として、防波堤にイワガキ等の固着も確認された。漁業者からの聞き取り調査では、港内にイワシやマアジ等の魚が増えているとのことであった。

<参考文献>

- ・「豊かな海」を目指した取組の事例集（環境省）